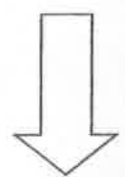


小牧市障がい者計画	取組み	目的・ねらい	実施有無	行なった内容	ア. 実施して気づいたこと、評価 イ. 調整会議で意見をもらったこと	参考(第3次小牧市障がい者計画)	参考(第5期小牧市障がい福祉計画)、 (第1期小牧市障がい児計画)
事業所の理解促進	障害者雇用支援月間(9月)時にポスター掲示	障がいのある人の雇用促進に関する広報・啓発活動に取り組み、企業等の理解・協力を推進	9/12配布	ポスターを事業所に配布	ア. 就労継続支援A・B型、就労移行支援事業所及び市、社協にポスター一配布、掲示だけではPRは弱い。 ア. 障害者雇用のPRは、少しはできた。	P38(1)	P55(1)
就労施設への支援	障がい者が働く事業所がイドブツクの更新・発行	一般企業や、働きたいと思っている障がいのある人への情報発信	H31.3月に更新	小牧市及び小牧市社会福祉協議会の掲載予定。	ア. 利用者が事業所を選ぶ際のツールとして活用されている。今後毎年1回情報を更新していく。	P38(2)	P43、P44(4)①④
障がい者雇用の推進	就労継続支援事業所から一般企業に就職した方のアンケート実施(更新) 障害者雇用推進セミナー開催の協力	就労移行支援、就労継続支援A型、B型から一般就労の機会が拡大や職場定着 一般企業からの障がい者雇用促進	9月中旬に更新 H31.2/1開催	アンケート実施 ①一般就労を希望される障がいの方や就労支援機関との情報交換 ②講演「再考：合理的配慮とは～これからの障がい者雇用を考える～」 ③「障害者雇用」に至るまで「配慮」と取り組み～「シンポジウム」これからの障害者雇用とは	ア. 25人一般就労した。 ア. 利用者が減り、運営が厳しい事業所もある。 ア. 障がい者と事業主の相互理解のためにナビゲーションブックが有効。 ア. 「同じ障がい」でも一人ひとり違うため、実習を行い、業務とマッチしているか判断。 ア. 一人の社会人として見ていく。	P38(3) P43、P44(4)①④	P43、P44(4)①④
学校との連携	特別支援学校との情報交換会の実施	①市内の卒業生の進路確保 ②進路指導担当と情報共有、事業所のPR	H31.12/14実施	進路指導担当に小牧の事業所を紹介	ア. 学校も事業所も毎年、継続して情報交換会を希望。 ア. 4人の生徒の進路が未定。 ア. 小牧市は、障害福祉サービス事業所の横のつながりが強い。	P42(6)	P40(1)⑤

○来年度以降の数値目標(第5期小牧市障がい福祉計画・第1期小牧市障がい児福祉計画より)

指標	基準値(H28)	実績(H29)
一般就労移行者数	11人	25人
就労移行支援事業利用者数	21人	50人



数値目標(H32)
17人
26人

【参考】平成29年度サービス量及び平成30年度以降のサービス見込量
(第5期小牧市障がい福祉計画・第1期小牧市障がい児計画より)(年間におけるひと月あたりの平均)

区分	単位	平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度	
		見込	実績						
就労継続支援A型	利用者数	人	168	166	176	185		194	
	利用日数合計	日	3,362	3,263	3,530	3,707		3,892	
就労継続支援B型	利用者数	人	149	152	164	180		198	
	利用日数合計	日	2,580	2,599	2,838	3,122		3,434	
就労移行支援	利用者数	人	23	25	24	25		26	
	利用日数合計	日	359	402	386	416		447	

小牧市障がい者計画	取組み ・障害者総合支援法一部改正について知る ・情報交換	目的・ねらい お互いに情報を得ること で、相談員として必要な知識を得る	実施 有無	行なった内容 ・法改正について市から説明 ・グループに分かれてモニターングについてや、高齢者と障害者支援に違いについての情報交換を行った	ア. 実施して気づいたこと・評価 イ. 調整会議で意見をもらったこと	参考(第3次小牧市障がい者計画)	参考(第5期小牧市障がい福祉計画)、(第1期小牧市障がい者計画)
相談員の質の向上	研修会の開催(年2回) ①障害者総合支援法一部改正について ②相談支援の面接技術の向上	障害者相談支援専門員の質の向上と人材育成	7/2	市役所よりH30年度から報酬請求変更の説明		P29、P52(2)	P41(3)、 P52(5)、 P55(3)、 P64(1)
			H31.1/9	最も基本である相談支援専門員としての面接技術を学ぶ研修会の開催 参加者：15名	ア. 基本的に立ち返ることができた。 ア. 想像をつける ア. 自分の面談を他者に見てもらい、アドバイスがもたらえた。	P53 (4)	P41(3)、 P52(5)、 P55(3)、 P64(1)
	事例検討会の実施(年4回)	①困難事例のケース検討を行い、多くの相談員のアイデアで打開策を探る ②相談員一人ひとりの提案力、課題解決力の向上を目指す	4/26	第1回事例検討会実施 参加者：14名			
			7/2	第2回事例検討会実施 参加者：16名			
	就労支援連絡会、日中活動系連絡会、こども連絡会との連携	①他の関係機関との情報交換を行い、連絡会に情報提供する ②相談支援事業所連絡会と課題の情報共有していく	10/25	第3回事例検討会実施 参加者：13名	ア. 事例検討会を続けていくことで相談員としての知識を増やしや常識に囚われない支援の仕方を学べた ア. 検討会後ケース会議をした。 ア. 各連絡会に参加することで、どのような動きをしているかわかっていた ア. 相談員から課題の投げかけはできていない。	P41 (2)、P42(6)、 P53 (4)	P40(1) ⑤、(3)、 (4)、P55 (3)
			随時	委託相談支援事業所の相談員が、各連絡会にオブザーバーとして出席			

○来年度以降の方向性(第3次小牧市障がい者計画より)

指標	基準値(H28)	目指す方向性
障害福祉サービス支給決定者に占めるサービス等利用計画・障害児支援利用計画作成者の割合	73%	

【参考】平成29年度サービス量、来年度以降のサービス見込量

(第5期小牧市障がい福祉計画・第1期小牧市障がい児福祉計画より)(年間におけるひと月あたりの平均)

区分	単位	平成29年度		平成30年度	平成31年度	平成32年度
		見込	実績			
計画相談支援	利用者数	98	100	105	113	121
障害児相談支援	利用者数	32	33	35	39	43

区分	単位	平成29年度		平成30年度	平成31年度	平成32年度
		受給者証発行 (H30.3.31時点)	セルプログラン (H30.3.31時点)			
障害福祉サービス受給者証	発行者数	823	195	23.6%		
通所受給者証	発行者数	416	202	48.6%		

平成30年度 日中活動系連絡会事業計画実施状況 ～障がい者にとって安心できる居場所を確保する～

期間：平成30年8月から12月

小牧市障がい者計画	取組み	目的・ねらい	実施有無	行なった内容	ア.実施して気づいたこと、評価 イ.調整会議で意見をもらったこと	参考(第3次小牧市障がい者計画)	参考(第5期小牧市障がい福祉計画)、(第1期小牧市障がい児計画)
福祉人材の確保	福祉・介護の就職フェアの開催	①介護・福祉人材不足解消 ②福祉・介護の魅力PR	5/31実施	市内介護保険サービス事業所連絡会事業と合同で福祉・介護の就職フェアを開催 会場：小牧市公民館 来場者：49名 参加事業所：26事業所	ア.学生の来場が少なかった。 ア.主婦が多く来場した。 ア.地元の方が多く来場された。 ア.6名の方の就職につながった。 ア.市内介護保険事業所も一緒に出張した。集客率アップにつながった。	P35(5)	P39、P40(1)②、③(2)①～③
防災への取り組み	災害時備蓄品リストの更新	災害時に事業所同士が助け合う為の情報共有	H31.3月に更新	備蓄品チェック更新：13事業所	ア.事業所の備蓄品を共有できた。 ア.共有した備蓄品をどう生かしていくか決めていない。	P50(3)	
学校との連携	特別支援学校との情報交換会の実施	①市内の卒業生の進路確保 ②進路指導担当と情報共有、事業所のPR	12/14実施	進路指導担当に小牧の事業所を紹介	ア.学校も事業所も毎年、継続して情報交換会を希望。 ア.4人の生徒の進路が未定。 ア.小牧市は、障害福祉サービスの横のつながりが強い。 ア.家族は送迎サービスの希望が強い。 ア.また、長く預かってくれるサービスを希望。 ア.4人の生徒の進路経過を確認。 イ.9時～16時のサービスの早朝、夜間時間をどう埋めていくか。	P42(6)	P40(1)⑤
サービスの向上	事業所相互の見学(出張連絡会を含む)	サービス事業者が支援に係る知識の習得や技術の向上	9/18実施	サンビレッジの見学会	ア.サンビレッジの工夫していることや特色などが分かり、今後の事業所の取組みに活かす内容だった。 イ.他事業所を見て学びたいと継続の希望があり、来年度も行う方向。 ア.本庄授産所の支援計画書、支援実施計画書を見ることにより自事業との比較ができた。 ア.継続して順に事業所が個別支援計画、アセスメントを持ち寄り計画書について勉強会を行う。	P41(3)	P40(2)②
	勉強会・研修会	①当事者の生活の質の向上 ②サービス等利用計画、個別支援計画の質の向上	12/18	本庄授産所の支援計画書、支援実施計画書勉強会	ア.本庄授産所の支援計画書、支援実施計画書を見ることにより自事業との比較ができた。 ア.継続して順に事業所が個別支援計画、アセスメントを持ち寄り計画書について勉強会を行う。	P35(2)	P39(1)、P48(2)、P57(9)

【参考】平成29年度サービス量及び平成30年度以降のサービス見込量
(第5期小牧市障がい福祉計画・第1期小牧市障がい児福祉計画より)(年間におけるひと月あたりの平均)

区分	単位	平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度	
		見込	実績						
生活介護	利用者数	258	258	265		272		279	
	利用日数合計	5,035	4,969	5,171		5,311		5,454	

小牧市障がい者計画	取組み	目的・ねらい	実施の有無	行なった内容	ア. 実施して気づいたこと、評価 イ. 調整会議で意見をもらったこと	第3次小牧市障がい者計画	第5期小牧市障がい福祉計画 第1期小牧市障がい児計画
ネットワーケの構築	関係機関との情報交換、連携の為に意見交換	ライフスペースにおける切れ目ない支援	10/2 第2回こども連絡会(参加者39名)	義務教育が始まるまでの各機関の役割の確認	ア. コミュニケーションの力が弱いことや、両親が動いていない世帯が多いことで、親の支援が重要となってきている。 ア. 学校が個別支援計画作成について義務化され、益々成長記録ノートへの活用を広めていくと良い。	P40(1)	P40(1)⑤
			2/7 H29年度第4回こども連絡会 5/22 第1回こども連絡会(参加者42名)	学校・家庭・放課後等子が行うサイバー攻撃の役割の確認 相談支援専門員から就業継続の説明を行った 事業所同士の情報共有	ア. 放課後等サイバーに就業支援について知ってもらうことで、今後につながる支援になったり、親の相談先になる。 ア. それぞれの事業所や機関の特徴や工夫を学ぶことができた。	P40(1)⑤、P41(4)、P64(1)	
障がい児支援早期療育の充実	成長記録ノートの活用継続と学校に繋げる取り組み 「はじめのいっぽ」作成 相談支援事業との連携	ライフスペースにおける切れ目ない支援	1/30 第3回こども連絡会 編集会議終了	成長記録の活用事例	ア. 4年に一度の改定で、確認作業を行い、内容が変わった所が多くあった。 ア. 今後も継続していく	P41(2)	P40(1)⑤、P41(4)、P64(1)
			相談支援事業との連携	3月発行予定 連絡会、研修会には、毎回相談を交えて行った			
サービスの向上	研修会の実施	サービス事業者等の質の向上	9/3 (参加者15名)	「保護者理解と支援」愛知県講師：二保育田コ支援 森田浩正 氏 ※障害者と支援事業の同開催	ア. 保護者の置かれている環境や状況を理解し、寄り添いながら子どもの支援を行うっていくことの必要性について学んだ。	P41(3)	P40(1)④、P41(3)
			事例検討・研修の実施(強度行動障害への支援等)	事例検討・研修の理解を深める取り組み・キララバンド等	ア. 困りごとなどに対し、それぞれが事業所が行っている工夫を聞くことができた。 ア. その子にとっての良い支援を各機関と連携をしながら支援をしていくことが必要 ア. 事例を提供した事業所の気づきにつながった。	P42(4)	P55(1)、P65(1)、P66(2)
子ども・子育て支援に おける障がい児の受け入れ推進	事例検討・研修(障がいの理解を深める取り組み・キララバンド等)	保育園・幼稚園・こども園・児童クラブ・放課後子ども教室等においての障がいの適切な受け入れ促進	3/8	「発達障がい児の治療について学ぶ研修会」の実施参加者40名	ア. 薬の服用をすることのメリット、デメリットを学んだ。	P42(6)	P40(1)⑤、P41(4)
			事例検討・研修会の実施 成長記録ノートの活用 性の研修 就労支援事業所との交流	来年度実施 H31.1/30 第3回こども連絡会 来年度実施 来年度実施 予定			
学校との連携	事例検討・研修会の実施	乳幼児期から学校また卒業後の場を知り合い、繋がりがり、連携する。					

【参考】平成29年度サービス見込量及び平成30年度以降のサービス見込量
 (第5期小牧市障がい福祉・第1期小牧市障がい児計画より)(年間に於けるひと月あたりの平均)

区分	単位	平成29年度		平成30年度	平成31年度	平成32年度
		見込	実績			
児童発達支援	利用者数	68	80	74	81	89
	利用日数合計	694	780	758	828	904
放課後等デイサービス	利用者数	276	280	304	334	367
	利用日数合計	3,787	3,852	4,166	4,582	5,040

小牧市障がい者計画	取組み	目的・ねらい	実施有無	行なった内容	ア. 実施して気づいたこと、評価 イ. 調整会議で意見をもらったこと	参考(第3次小牧市障がい者計画)	参考(第5期小牧市障がい福祉計画)、(第1期小牧市障がい児計画)
障害福祉サービス(訪問・日中活動系)等の充実	訪問系サービス事業所同士の意見交換会	地域での自立した暮らしを支える居宅介護、重度訪問介護、訪問看護、訪問リハビリなどの訪問系サービスと情報共有、情報交換、課題の共有。	7/11実施	在宅サービス事業所と相談支援専門員との連携で情報交換会を実施。参加者：24名	ア. サービス等利用計画の内容が在宅サービス事業所に伝わらない。わかりにくい。 ア. 相談支援専門員は、連携の要。 ア. 市内の在宅サービス事業所が少ない。 ア. 医療的ケアができる居宅介護事業所がない。	P35(2)	P40(2)①、P48(1)
相談先の周知	福祉サービス事業所一覧作成、発行	①民生委員、地域包括支援センター等が地域での見守り活動を通じて支援が必要な人を発見した場合、速やかに相談期間へつなぐ。 ②広く市民に障害福祉サービス事業所を周知する。	7月より実施 12月完成	①、②市内6地区の民生委員・児童委員連絡協議会で相談支援事業所をPR。 ①、②北里・西部地区のサロン専門職相談や福祉出前講座で相談支援事業所をPR。 3箇所(北里・藤島団地、西部・間々子育て、西部・元町)	ア. 知的や精神の障がいがどのような症状、状態なのか市民に知られていない。 ア. 少数ではあるが、障がいに関する相談はある。障害相談支援事業所が市民にあまり知られていない。 ア. 相談に来た市民に活用ができていない。 ア. 相談支援専門員にも有効な情報	P53(3)	P39(1)②、P55(1)、P67.3
障がいに関する理解の促進	ヘルプマークの配布	義足や人工関節、内部障害や難病、精神障害、知的障害または妊娠初期の人等、援助や配慮を必要としていることが外見では分からない人々が、周りに配慮を必要とすることで、援助が得やすくなる。	7月より実施	市役所長寿・障がい福祉課、小牧市保健センター、子育て世代包括支援センターで配布	ア. ヘルプマークの用途が間違っって市民の方に伝わっていない。ヘルプマークの理解、啓発が必要。	P32(2)	P55(1)

【参考】平成29年度サービス見込量及び平成30年度以降のサービス見込量(第5期小牧市障がい福祉計画・第1期小牧市障がい児福祉計画より)(年間におけるひと月あたりの平均)

区分	単位	平成29年度		平成30年度	平成31年度	平成32年度
		見込	実績			
居宅介護	利用者数	人	225	314	236	242
	利用日数合計	日	5,503	5,244	5,782	5,926
	重度訪問介護	利用者数	人	3	7	4
同行援護	利用日数合計	日	903	964	1,300	1,560
	利用者数	人	11	12	13	15
	利用日数合計	日	152	166	184	202
行動援護	利用者数	人	4	4	5	5
	利用日数合計	日	159	130	192	212